

旧山繁商店の保存と活用に向けて

問 秘書室 ☎88-2530
文化課 ☎84-1093

瀬戸市の中心市街地の瀬戸川北側はかつては「北新谷」と呼ばれ、瀬戸有数の卸問屋であった旧山繁商店をはじめとして今日の歴史的景観が多く残っています。市では、国の登録有形文化財となっている旧山繁商店を保存し活用していく計画を作っています。旧山繁商店とは、いったいどんなところなのか、どのように活用し、後世に残していくのか考えてみませんか。

登録文化財とは

旧山繁商店の9棟の建物が国の有形文化財に登録されています。厳しい規制がある指定文化財とは異なり、外観などを保ちながら、規制をゆるやかに活用していくことを重視する文化財保護の制度です。

瀬戸の隆盛を物語る陶磁器の卸問屋

江戸時代の後期は尾張藩の蔵元制度により、瀬戸で作られた陶磁器は一旦「御蔵会所（現在の瀬戸蔵の場所）」に集められ、各地へ流通されていました。明治維新によりこの制度は廃止され、自由競争・自立自営の道が開かれました。

明治20年頃、初代加藤繁太郎は、山繁陶磁器商店という卸売業を始めました。瀬戸川流域

の北側の丘陵地の「北新谷」と呼ばれる地区には多くの窯屋があり、製品の集積・運搬に適した場所でした。北は北海道から南は九州の大分県あたりまでと、全国各地の問屋や個人と取引をしていました。

山繁商店の土地・建物群は平成26年に公有化され、「旧山繁商店」建造物群として、保存活用を進めることとなりました。



明治後期には約50軒あったとされる瀬戸の陶磁器卸問屋の中で、1か年の販売高が2万円（現在の約4億円）を超える業者は7社。山繁陶磁器商店もこの中に入り、瀬戸屈指の問屋であったことが伺えます。



▶昭和2年に皇族の李錫公が逗留された折に撮影されたもので、今はなき主屋前の庭で撮影されたと考えられます。中央右が李錫公、中央左が2代繁太郎、左端前の少年が3代繁太郎（8代瀬戸市長）です。

平成	昭和							大正			明治			
27年	38年	21年	20年	18~20年	14年	5年	4年	2年	10年	8年	7年	44年	19~20年	
国の有形文化財に9棟の建造物が登録される	三代加藤繁太郎が瀬戸市長に初当選	東京丸寿商店を山繁合名会社東京出張所として陶磁器卸売業を再開	敗戦により上海支店を閉鎖	需用ネジを製造	戦争激化に伴い、本車で軍	中国上海市に支店を開設	関院宮春仁王殿下が来訪	三代加藤繁太郎が山繁合名会社の代表社員に就任	李錫公殿下が宿泊	山繁合名会社に組織変更	二代加藤繁太郎が山繁合名会社を継承	東京市日本橋に丸寿商店を開設	梨本宮守正王殿下が宿泊	初代加藤繁太郎が陶磁器卸問屋、山繁陶磁器商店を創業

旧山繁商店の歴史

旧山繁商店は瀬戸でも有数の陶磁器卸問屋であり、窯元から品物が運び込まれると梱包し、出荷していました。大正から昭和期にかけての各時代の和風・洋風の倉庫が建ち並び、価値のある建造物群だと思っています。

現在、保存活用計画の策定を進めており、貴重な文化財として保存していくという側面と、活用するという側面を考えながら、現代によみがえらせてどういう使い方ができるか、皆様のご意見をいただいて検討してまいります。

古き良き時代を思い出しながら、瀬戸を楽しんでいただけるような施設にしていきたいと考えています。

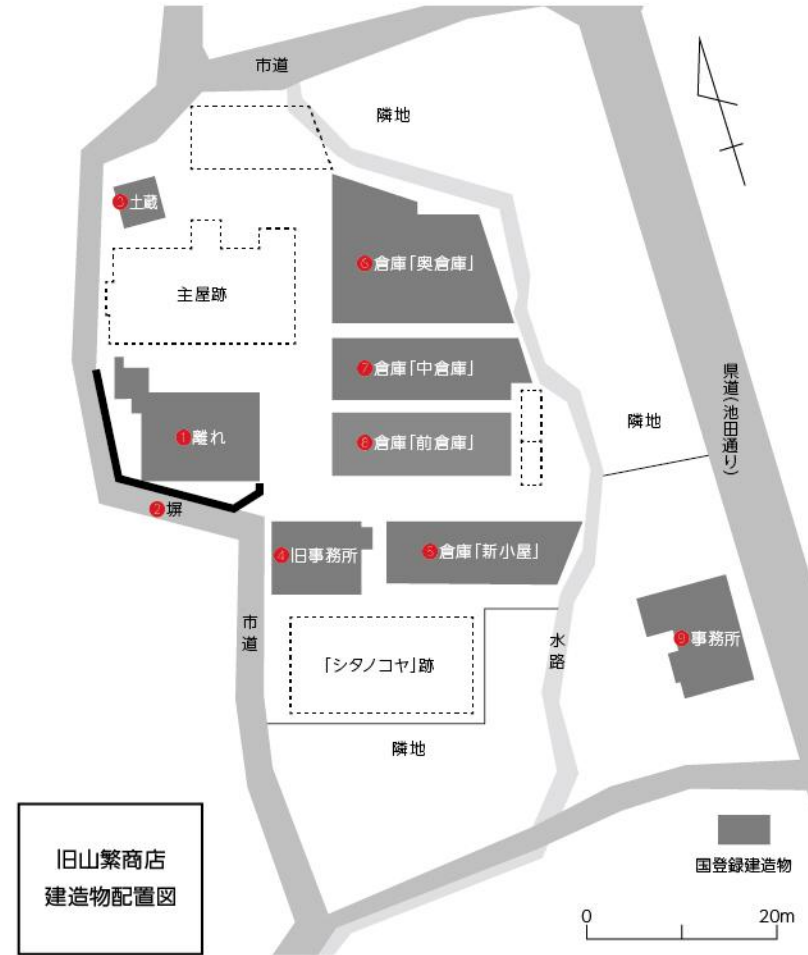
瀬戸市長 伊藤 保徳



徹底図解!

旧山繁商店

旧山繁商店には約2,500㎡の敷地に9棟の建物が現存しており、いずれも国の有形文化財に登録されています。



特集 旧山繁商店



1 離れ

木造2階建/明治22年
創業家である加藤家の離れで、皇族などの宿泊にも使われました。



2 塀

木造・瓦葺・石垣/明治22年
正面左右に扇の形をした石がはめ込まれており、当時の石工の心意気が伺えます。



3 土蔵

土蔵造2階建/明治36年
道具蔵として使われていたものと思われ、南側の主屋に附属していました。大振りな鬼瓦を載せ、風格を示しています。



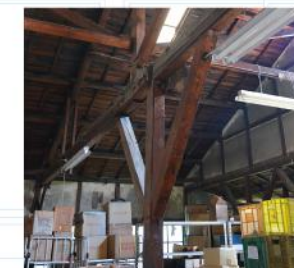
4 旧事務所

木造2階建/大正3年
1階の事務室は土間にカウンターの痕跡を残し、床上部と併用する近代の帳場の様相となっています。



5 倉庫「新小屋」

土蔵造2階建/大正3年
2階は登り梁を用いるなど空間を広くとり、多く収納できるような構造となっています。



6 倉庫「奥倉庫」

木造平屋建/昭和25年
大型の倉庫で、上絵付を行っていた時期もあります。



7 倉庫「中倉庫」

木造平屋建/昭和22年

8 倉庫「前倉庫」

木造平屋建/昭和22年

戦中は軍需工場として、戦後は陶磁器の加工などの作業場としても使用されました。



9 事務所

木造平屋建/昭和22年

戦後、陶磁器輸出など事業拡大の際に建てられました。事務室と応接室を併設しています。

旧山繁商店の保存と活用に向けて

瀬戸市歴史文化基本構想に基づき、貴重な国登録有形文化財の旧山繁商店を保存し活用していくための指針として、「旧山繁商店保存活用計画」を策定し、9棟の歴史的建造物の保存修理・公開活用の方法を定めていきます。



現在、一部の建物はシートで覆われた状態で保護されています。

保存・活用に向けたスケジュールと方法

「旧山繁商店保存活用計画」は、平成28年度から計画の策定委員会を組織し検討を重ね、平成30年3月の策定を目指しています。建造物の詳細な調査を進め、委員会を開催すると同時に、旧山繁商店の文化財的価値について市民の皆さんに知っていただくためのイベントなどを重ねていきます。

旧山繁商店保存活用計画策定委員会



地域の代表の方や、文化財建造物の専門家、まちづくりについての学識経験者で組織された策定委員会において計画の検討を進めています。まず、各建物の詳細な調査を行い、修理や増築の過程、部材の傷み具合を調べます。

その結果に基づいて、修理や保存管理の計画を作成します。また、市民の方の意見などを参考にしながら、活用案について検討しています。



旧山繁商店保存活用計画 策定ワークショップ

3月5日(日)と12日(日)に、旧山繁商店の保存と活用について市民が考えるワークショップを開催しました。

参加者は、まず旧山繁商店を見学し、率直に今後の方針について話し合いました。



旧山繁商店の印象はこんな感じ!

敷地が広いですね!

坂の上からまちを眺めるロケーションがすてき。

皇室の宿泊所としての歴史があり、上質な空間です。

落ち着いた感じがいいね!

倉庫の広い空間に可能性を感じます。



特集 旧山繁商店

第1・2回ワークショップからの声

キーワード

こんな居場所にしたいな

- こん 困難なトラブルをエネルギーに! 未完成がいい! 人が育つ! 人が繋がる未来へ繋ぐ創造の広場!
- な ナイトライトが美しい! 24時間営業! スタッフ・アプローチ・情報発信・マネジメント
- い いろいろな主体(行政・市民・NPO・コミュニティビジネスなど)の役割分担と実践研究
- ば 場の力を発揮させるため、奥倉庫はフレキシブルに! —コンサート・大パーティ・修学旅行の子どもたち…
- しよ 瀟洒な美しさに富む離れは迎賓館・アーティストインレジデンス・茶室に!
- に 2階の階高低い新小屋は畳敷き。1階は居場所など、空間特性を!
- し 四季折々のイベント、銀座通り商店街、陶の路などの繋がりで、日常・非日常のまちの元気を育てる循環の拠点として。
- た 食べ物と陶器の体験ができる! 瀬戸メシ! 瀬戸の作家(陶器・家具)—開放的な空間を活かす!
- い 以前の暮らし方営み方が「生で」or「バーチャル」で体験できる仕掛けを! —子どもたちの学びの場(次世代への地域価値のつなぎ)
- な 南北に抜ける道。囲まれた空間配置を活かし、東西どちらに顔を作るか?

延藤 安弘氏(旧山繁商店保存活用計画策定委員)まとめ



旧山繁商店の 保存と活用への思い

旧山繁商店について、関係者や地元の方々にお話をうかがいました。



服部 郁

瀬戸市文化課主幹

旧山繁商店の一番の魅力は、明治・大正・昭和という、瀬戸の近代陶磁器産業の歴史を物語っていることですね。産業の担い手たちの創業期の勢いや、戦中戦後の苦しい時期、戦後復興にかける思いなどをそれぞれの建物から感じることができます。

また、建物の種類が多いことも魅力ですね。経営の中心となっていた新・旧事務所は、土間のある「店」から現代的な商社事務所への変遷がわかりますし、離れは皇族接待用に整備されたこともあって、瀟洒な雰囲気を持っています。新小屋や倉庫群は大正・戦前・戦中・戦後と時代に合わせて増設されていった過程をみることで、戦後物資が乏しい中でも規模を拡大し、戦後の復興を支えていた様子がわかります。

この建物を現代にどう活かしていくのかを検討していますが、こうした歴史を感じる施設として、まちの魅力を高める建物に復活させていきたいですね。



寺田 和夫 さん

旧山繁商店保存活用計画
策定委員
道泉連区自治会会長

旧山繁商店は、全盛期は瀬戸の陶磁器の販売の中でも多くの輸出のシェアを持っていました。初代加藤繁太郎と共に山繁商店をつくった加藤左衛門は名鉄瀬戸線の前身である瀬戸自動鉄道の創始者でもあり、また物流のために尾張瀬戸駅周辺に道路が作られるなど、旧山繁商店は現在の市街地のもとを作ったともいえる歴史ある場所です。しかし、その歴史を知っている人がどんどん減っています。残せるものは残し、瀬戸の歴史や旧山繁商店の生い立ち、陶磁器の輸出の歴史をしっかりと伝えられる場所になってほしいと思います。



岡村 肇 さん

旧山繁商店保存活用計画
策定委員
深川連区自治会会長

文化財としての価値を残しながら活用するのは大変だと思いますが、資料館や迎賓館として、また瀬戸の食を楽しんだり陶芸体験ができる場所として、多くの人が集う場所になればと思っています。

地に元に住んでいても、旧山繁商店の名前は知っているが有形文化財に登録されたことは知らないという人も多いと思います。

陶磁器販売の一大拠点であり瀬戸のルーツがわかる場所として、小中学生に見学してもらったり市内外から訪れた人が散策できるコースをつくるなど、まずは多くの人に知ってもらいたいです。